

国際自然保護連合 (IUCN) の総会である世界自然保護会議は、4年ごとに開催されます。2020年が開催年でしたが、新型コロナウイルスの影響で延期されました。会議に提出された128もの動議は先行してオンラインで議論され、異論の多かった動議は本会議に持ち越されました。そして文言が固まったものはオンラインで投票が行われ、全て採択されました。

これらの動議はIUCN会員団体が、今取り組むべきと考える課題です。そのいくつかをご紹介します。

●くらしとかかわりの深い課題

農業や食に関する動議が数多く提出されました。大豆、ヤシ油、カカオ、牛肉、天然ゴム、木材、コーヒー、茶、さとうきびなど国際取引されるこれらの農産物が、森林破壊の原因になっています。そのためサプライチェーンから森林破壊によって生産された農作物を2030年まで排除しようという動議 (Motion012、127) が採択されました。そしてSDGsに沿った持続可能な土地管理を通じての世界の食料システムの改革 (004) や農業生態学の報告書をつくらうという動議 (008) など、課題を明らかにするだけでなく、解決に向けた取り組みもありました。

そしてようやく注目されるようになったプラスチック汚染については、海洋プラスチック汚染 (022)、保護地域のプラスチック汚染 (083)、そしてプラスチックの代用品としての紙の使用増加の懸念 (092) が動議として提出され、採択されました。

●これから注目の課題

また一般にあまり知られていない問題に取り組んでいこうという動議もあります。

集魚装置 (FAD) を減らし、マグロを回復させる (028) という動議は、人工浮き魚礁とも呼ばれる、人工的な浮き漁礁に集まった魚を巻き網で捕獲する漁法が、乱獲や幼魚を含む混獲の原因になっていることから、対策を進めようというものです。また観光クルー

ズ船からの排水の規制を強化する法改正を進めるよう要請する動議 (032) や、沈没船のオイル対策 (030) などもあります。

SDGsの時代を感じさせるのが「権利への障壁を取り除くこと」の自然保護上の重要性—自主性に基づく家族計画 (087) です。人口増加による持続不可能な自然の利用の解決と女性の健康と権利のために、環境保護団体とリプロダクティブヘルス団体が協力する活動の一環として動議が提出され、採択されました。

本会議に持ち越された動議で目に付くのは先住民族・地域社会に関する動議です。生物多様性および生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム (IPBES) が2019年に発表した地球規模評価報告書では、「先住民族・地域社会が保持・管理する地域では環境の改変がそれほど深刻ではない」としています。一方で保護区に指定されることにより先住民族・地域社会のくらしが脅かされるという懸念の声が上がっています。生物多様性条約の次回締約国会議で決める、2030年目標の保護区の目標面積とも関連し、先住民族の権利と自然保護をいかに両立するか、議論を深める時期にあるようです。



パーム油のプランテーションのために伐採されるボルネオの森 2014年3月
Rich Carey / Shutterstock.com

IUCN 動議一覧 <https://www.iucncongress2020.org/event/members-assembly/motions>

JWCS 認定特定非営利活動法人 野生生物保全論研究会

設立: 1990年 NPO法人格取得: 2001年 認定取得: 2014年

名誉会長: 小原秀雄 (女子栄養大学名誉教授) 会長: 小川潔 (東京学芸大学名誉教授) 副会長: 森川純 (酪農学園大学名誉教授) 事務局長: 鈴木希理恵
理事: 小林邦彦 (総合地球環境学研究所研究員) 永石文明 (㈱エコロジープラス) 並木美砂子 (帝京科学大学教授) 古沢広祐 (国学院大学客員教授)
監事: 高橋智史 (フォトジャーナリスト) 顧問: 岩田好宏 (元・中学高校教諭) 山極壽一 (前京都大学総長)

〒180-0022
東京都武蔵野市境1-11-19 モウト APT102
Tel&Fax: 0422-54-4885
E-mail: info@jwcs.org <http://www.jwcs.org>

[会費・寄付のご送金先]
郵便振替 00160-9-715145
加入者名 野生生物保全論研究会
正会員年間 5000円

表紙: リカオン

JWCS通信 2020年度通巻91号
2020年11月発行
発行人 = 小川潔
編集 = 鈴木希理恵
デザイン: 土肥優子

